

# 犬の乾性角結膜炎に対する自家製シクロスポリン 点眼液の臨床評価

片野修一<sup>1), 2)†</sup> 宮賢次郎<sup>2)</sup> 山我義則<sup>3)</sup> 藤原範子<sup>1)</sup>  
森田剛仁<sup>1)</sup> 島田章則<sup>1)</sup>

- 1) 鳥取大学農学部 (〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101)  
2) 新潟県 開業 (カタノ動物病院: 〒950-0075 新潟市中央区沼垂東1-5-21)  
3) 新潟県 開業 (エルム動物クリニック: 〒950-2055 新潟市西区寺尾上3-10-13)

(2009年1月27日受付・2009年4月22日受理)

## 要 約

犬の乾性角結膜炎 (KCS) の治療に、シクロスポリンの角膜組織への透過性と溶解度の点から0.025%および0.05%シクロスポリン点眼液 (αhシクロデキストリン含有) を異なる材料と方法で作製し、おのおのKCS罹患犬5症例に臨床応用を試み、その効果を比較検討した。評価項目として、結膜、角膜、角膜輪部、眼脂に区分した眼症状の改善度およびシルマー涙液試験 (STT) を用いて測定した涙液量を指標として臨床評価を行った。その結果、全例に眼症状の改善が認められ、0.025%点眼液より0.05%点眼液のほうが、角膜所見および眼症状の総合所見において有意な ( $P < 0.05$ ) 改善を示した。STT値は、0.025%点眼液で平均  $4.5 \pm 1.2$  mm/分、0.05%点眼液では平均  $8.1 \pm 2.0$  mm/分といずれも増量を示した。また0.05%シクロスポリン点眼液は製剤として沈澱、混濁がなく、均一安定性を示した。以上の成績から、犬のKCS治療に0.05%シクロスポリン点眼液が臨床的に有用であることが示唆された。

——キーワード: 犬, 乾性角結膜炎, シクロスポリン, 自家製点眼液.

----- 日獣会誌 62, 796~801 (2009)

---

† 連絡責任者: 片野修一 (カタノ動物病院)

〒950-0075 新潟市中央区沼垂東1-5-21

☎025-244-4901 FAX 025-244-4902

E-mail: skatano@seagreen.ocn.ne.jp